

巻頭小特集

秋山駿の文学

自由の風が吹き抜ける批評

対談 佐藤洋二郎×富岡幸一郎

6

名作再見

秋山駿 序章

27

解説 批評家の「声」 富岡幸一郎

33

特集 車中小説 戦後鉄道編

名作再見

広津和郎 幽霊列車

36

梅崎春生 蜷

44

小島信夫 汽車の中

57

中野重治 おどる男

86

書きおろし

佐藤洋二郎 天女

123

勝又浩 車中文学誌余聞(評論)

135

吉田健一

乞食時代

91

永井龍男

一個

97

中沢けい

雪のはら

105

文科 私のの中の姉・白石かずこ

白石雄治 147

新たな「神話」が立ち上がる 令和の文学・考

八木寧子 151

在る編集者―六十年を共に暮して

坂本貞枝 162

『青あらし』の陰に

庵原高子 164

著者と編集者

久米勲 166

文芸同人誌ならではの作品

越田秀男 168

創作 くすぐり(4) 大道珠貴

170

夢で逢いたい 土井莊平

180

西下東上 大嶋岳夫

193

父 吉川徹

205

あらゆる岸辺に着く船 南水梨絵

217

ブック・メーカー 河内康

228

集中連載

氾濫する『豊饒の海』 松本徹

309

―三島由紀夫 最後の五年間②

同人雑誌季評

持っていないものを奪われる 河中郁男 278

正しさと答え 谷村順一 302

連載 明日行灯(7) 芸術監督 麻田実 241

海の詩学―三島由紀夫(14) 「花ざかりの森」の中の海(中) 鈴木ふさ子 247

学界への窓 24

物語の中で人は生き続ける 内田百閒の『長春香』より 布施田哲也 263

文藝季評 47

それぞれの風 伊藤氏貴 268

同人雑誌および本誌会員から

文学伝習所の残党?として 和伸一郎 272

文学碑の周辺 西内真次郎 275

駅沿いのビル群 木下径子 277

砦

勝又浩 179 松本徹 227 山之内朗子 356

会員規約 358

今号の執筆者 359

編集後記 360